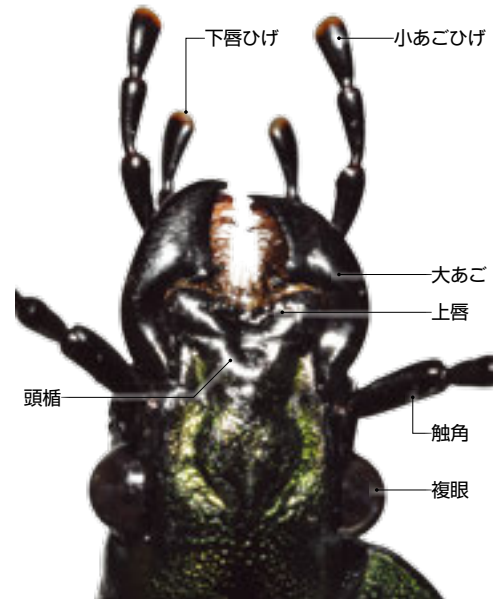


□ ① 形と食生活

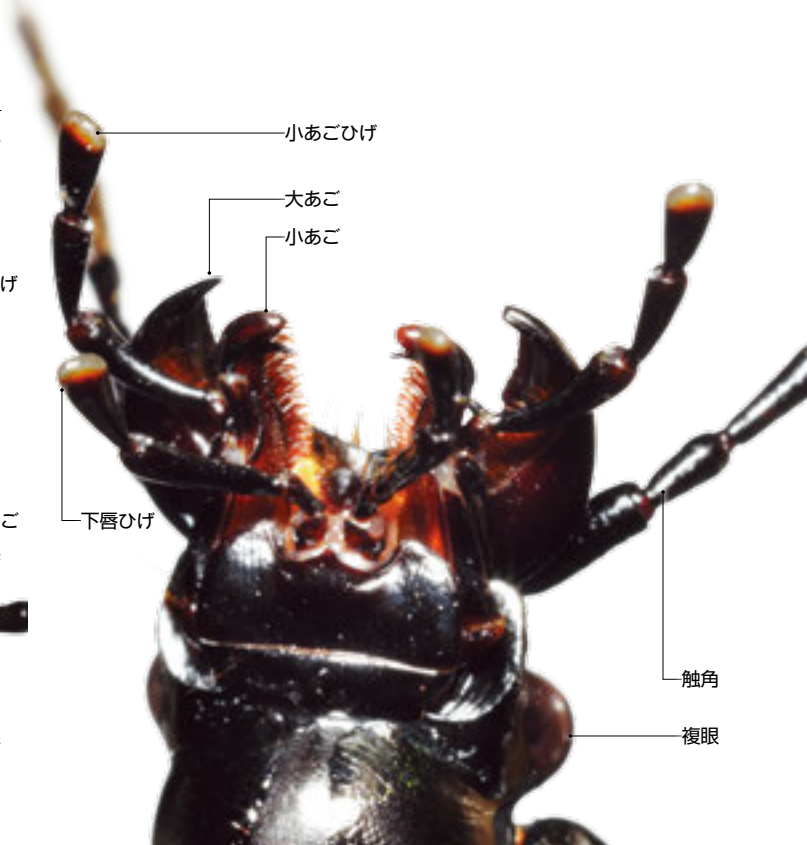
口器の形は食物と摂取方法により決まるようである。オサムシやバッタ、スズメバチは噛む口。セミやカは刺して吸う口、カブトムシやハエはなめる口だ。昆虫の食生活が形として現れている。

●噛む口(1)

オサムシの口は獲物の小動物を噛み、体液を吸収する。軟らかい肉は飲み込んで食べることもある。(p124)
味は口ひげで感じる。(p40)



アオオサムシの頭部と口の構造(背面)

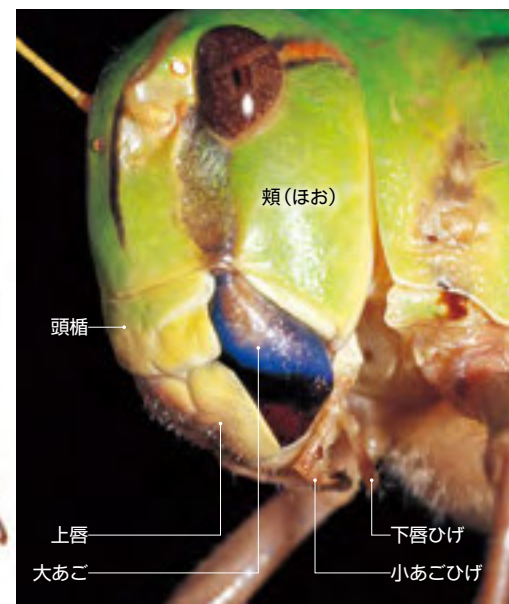
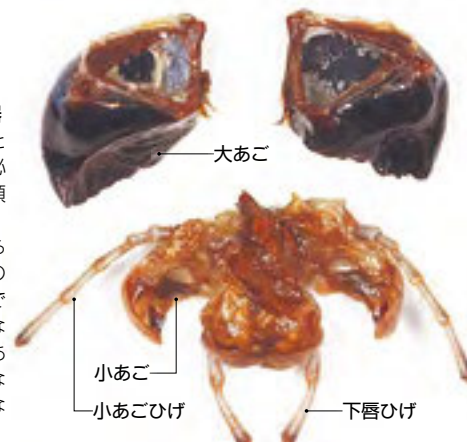


アオオサムシの頭部と口の構造(腹面)

●噛む口(2)

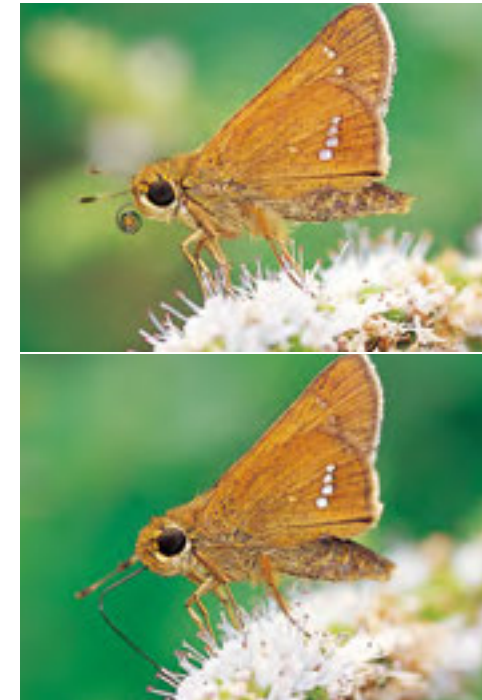
バッタの仲間は葉・茎を噛み切り、噛み砕く。その働きをするのが大あごだ。植物体は消化しにくく、細胞を壊して養分を吸収する。

トノサマバッタの口器
大きな歯(大あご)とそれを動かす筋肉が必要で、大きく頑丈な頭部となった。
左は分解して内側から見たところ。ナイフのような大あごの先端で切り取り、奥の平らなところでつぶす。大あごは左右で形状が異なり、噛み合うようになっている。(p94)



●吸う口

樹液や花の蜜などを吸う昆虫は管状の口となる。管状に見えるが、左右が合わさってできている(もとは大あご)。



イチモンジセセリ

普段は丸めているが、長い口を伸ばして花の蜜などを吸う。(p204)
チョウ・ガの仲間の口器は大あごが退化し、小あごが細長い管状になった。



アブラゼミ

針のような長い口を持ち、これを刺して樹液を吸う。口針(こうしん)という。口針はふだんはざやに納まっていて、それらをあわせて口吻(こうぶん)という。(p110)

●なめる口

樹液や花の蜜などを吸う昆虫はブラシ状、管状、筒状などの口となる。



カブトムシ

下唇が変化してブラシ状となった口。樹液や果実の汁を吸う。(p131)



セイヨウミツバチ(働き蜂)

噛むための大あご、その奥に下唇が変化した吸収用の筒をもつ。(p157)



ハエの一種

上唇が筒状になっている。(p168)